



## 導入教育の充実による専門教育の実力養成

Specialized Education Training by Means of Substantial First Year Experience

喜 成 年 泰<sup>\*1</sup>

Toshiyasu KINARI

「ゆとり教育1回生」の学年が大学2年生を迎えている。近隣の高校の先生方から「すごい、凄い。」とは聞かされてきたが、なるほど「スゴイ」学生が混じっている。大学入学試験においてかなり高めの敷居を設けている我が大学にして……である。確かに最近の学生は大学入学以前からパソコンが達者であったり、「話す・聞く英語」が達者であったり、以前の学生と比べて優れた特長をもつ学生も少なくない。ただ、半数近くの学生の計算力が従来と比べて極端に低い。計算力が乏しいせいもあると思うが、道理を理解しようとせず、丸暗記に頼ろうとする傾向が強い。大学受験のための勉強道具がふんだんに揃っていて、わずかな参考書代や学習塾の授業料を支払っただけで、懇切丁寧な参考書や「傾向と対策」のノウハウが手に入り、

「勉強＝用意された情報を効率よく暗記すること」と勘違いして大学に入学してくる学生が大部分であると感じる。

少し前の学生で、親御さん呼び出して「このままでは卒業が危ないですよ。」と忠告したら、

「先生、大学生に家庭教師して下さる方はいませんか？」

と真顔で質問された経験がある。この時以来、1年生の講義に最初に立ったときには

「諸君の受験勉強は、きれいに準備された情報を効率よく暗記することだったでしょうが、大学では何が重要な情報なのかを判断して、参考書を作ってあげられるプロになる勉強をしてくださいね。」と注意するようにしてきた。

私はH18年度工学部教務委員長として工学部全体のカリキュラムの立案・執行に携わったが、その前年度、工学部教務副委員長として工学部を代表して、共通教育機構（金沢大学における教養教育の実施責任機関）との折衝役を務めた。そのH17年度に「H18年度から金沢大学全学で、共通教育（旧教養教育）科目の導入科目として1年生前期に必修の『大学・社会生活論』を立ち上げる。」ことに同意した<sup>1)</sup>。これは工学部の教員から多くの反対があり、2年目の講義が終わった今でもあまり評判がよくない。すなわち、教育に熱心な教員からは、工学部では5年以上前から導入

教育を始めており<sup>2)</sup>、「今更、全学にあわせなくても……」との批判があり、一方、「大学教員の価値は研究で決まる。学生には自分の研究する姿を見せることが教育。」といった持論の教員も多い。四面楚歌の中で始めた「大学・社会生活論」。機械系の新入生約150名に対して2年間、コーディネータとして講義を組み立て、スタディスキルズ（ノートの取り方、レポートの書き方など）の講義を担当してきた<sup>3)</sup>。そして、新入生達の「受け身」の姿勢に直に触れ、

「大学の講義とは自ら課題を掘り起こして自分の身に付けていくものですよ。」

と注意喚起してきた。1年前期終了時のレポートには「大学では自ら学んで……」と書いた学生達の中の半数を1年後期で静力学の講義で担当し、またその中の半数の学生に対して2年前期の材料力学で担当した。結果は……冒頭の「計算力が低い」である。

「行きがかり」で引き受けた導入科目コーディネータであるが、今は良かったと思っている。入学してきた学生のスタート時点（1年前期）で勉学態度を示唆することができ、その後（1年生後期）、確かな計算力に基づいた「理解して身につける」勉学態度を涵養し、専門の講義（2年生前期以降）へと向かわせてやることができる。国立大学の教員としては少々担当コマ数オーバーかも知れないが、学生の成長していく様を見ることは楽しい。もちろん、プロの教員たるモノ、熱意や愛情だけでは今の学生には通じない。しっかりしたティーチングスキルズと、何よりも周到な準備は欠かせない。教師も日々研鑽である。

以上は2007年に執筆したもので、その後の動きは文献4)を参照ください。

### 参 考 文 献

- 1) 金沢大学工学部第7回教育方法改善シンポジウム報告書, pp.34-53, 2006
- 2) 課題調査を含む初期教育科目導入の教育効果, 勘甚, 喜成, 野村, 直江, H16年度工学・工業教育研究講演会講演論文集, pp.249-250, 2004
- 3) 金沢大学機能機械工学科における初年次導入教育, 喜成, 勘甚, 日本設計工学会北陸支部H19年度研究発表講演論文集, pp.45-46, 2007
- 4) 金沢大学機械工学類における初年度導入科目, 喜成, 勘甚, 古畑, 多田, 工学教育, 57-5, pp.29-33, 2009

平成21年11月17日受付

\*1 上級教育士（工学・技術）

金沢大学理工研究域機械工学系